

第6章 活用

第1節 方向性

活用の基本方針（「第3章 大綱・基本方針」を参照）に基づき、活用の方向性を以下に示す。

- ・ 史跡犬山城跡の本質的価値を市民、来訪者へ正確に伝えるため、遺構等の顕在化を図り、公開範囲の拡大を検討する。
- ・ 犬山城への理解を深めるため、犬山城の歴史及び文化財的価値を活かした企画・催事等を継続的に開催し、学習の場としての活用を図る。
- ・ 情報の発信方法や発信する内容の充実に努め、犬山城の普及・周知を図る。
- ・ 犬山城の価値や歴史に対する来訪者の理解を深めるため、展示及び案内・説明内容の充実に努める。
- ・ 周辺施設等との連携を強化し、周辺地域への回遊性の向上を図る。

第2節 活用の現状と課題

1 公開活用

(1) 公開範囲

ア 現状

史跡指定地内は、公益財団法人犬山城白帝文庫の事務所等が所在する樅の丸地区及び管理者用の詰所、倉庫等が所在する杉の丸地区、城山外縁地区及び三光寺山地区の北側斜面を除き、一般公開されている。

また、杉の丸地区の大手道沿いに券売所があり、国宝天守を含む本丸地区のみが有料区域となっている。

イ 課題

- ・ 犬山城の縄張りを構成する重要な遺構である曲輪の一部が公開されていないため、大手道を介して各曲輪へ連絡する犬山城の特徴的な縄張り構造が来訪者に伝わりにくい。
- ・ 城山外縁地区では、発掘調査により、史跡犬山城跡の本質的価値を構成する諸要素である土塁や切岸等が確認されているが、立入りが制限されているため、遺構の全貌を確認することができない。

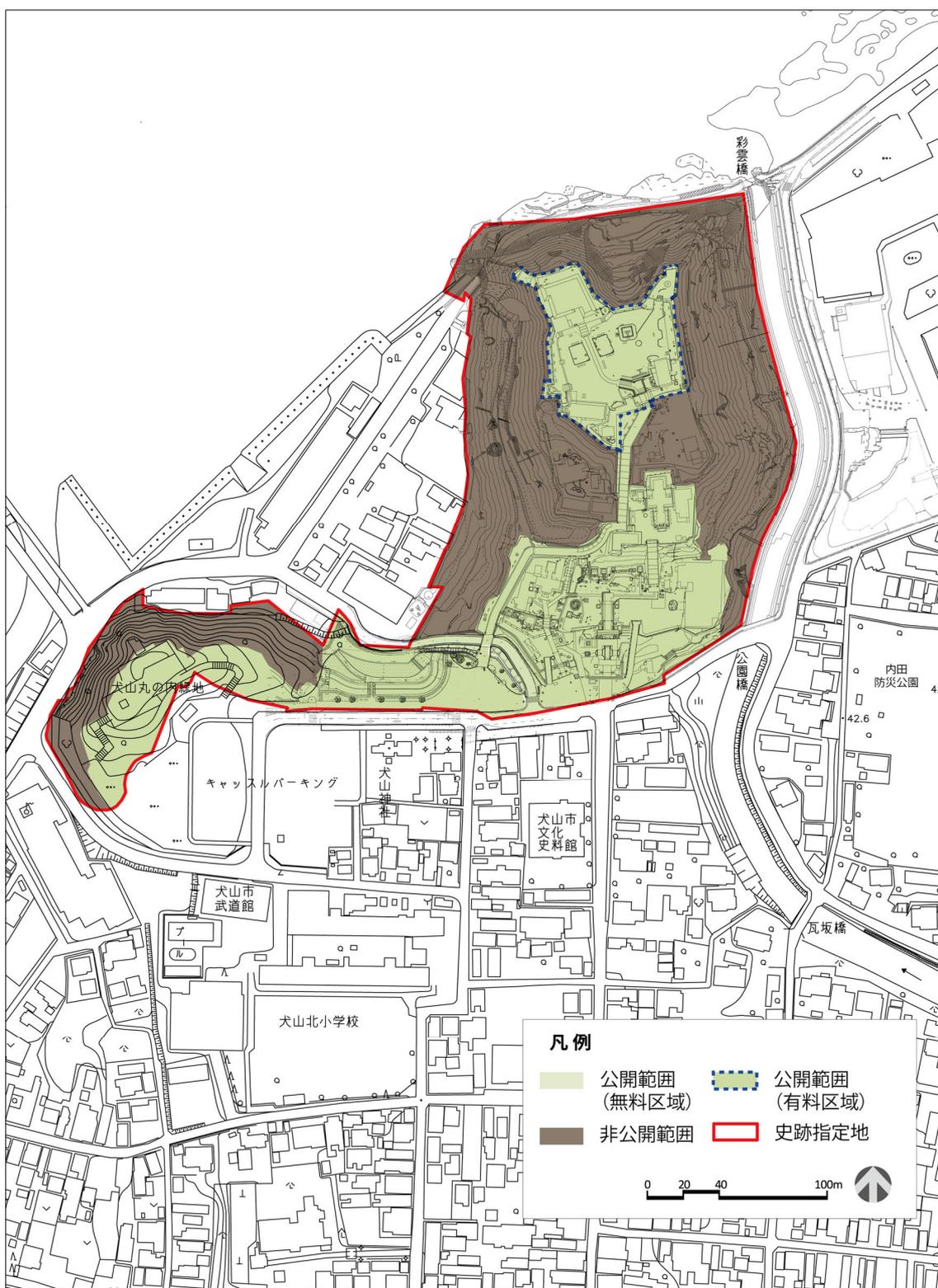


図 6.1 史跡指定地の公開範囲

(2) 遺構等の公開状況

ア 現状

(ア)石垣、堀、土塁、切岸等

一般公開されている範囲から視認できる近世以前に築造された主要な石垣（修理石垣を含む）は、本丸及び縦の丸南側の大手道に面している部分、本丸の南東側部分及び曲輪内の櫓台石垣等である。一方、非公開範囲となっている本丸の西側及び北側や、縦の丸の西側等の曲輪石垣は、視認し難い状況となっている。

城山外縁地区の西麓の堀跡及び土塁跡等は、松の丸地区の北西部付近の大手道からその形状を確認することができるが、一部は堆積物によって埋まっており、樹木等の繁茂による影響もあって遺構の全貌を把握することができない状況である。

城山外縁地区の東麓の切岸跡については、樹林地内に所在しているため、指定地の外部及び内部いずれからも視認できない状況である。



図 6.2 縦の丸南側石垣



図 6.3 本丸南東側石垣



図 6.4 城山外縁部堀跡

(イ)礎石・地下遺構等

門跡の礎石については、大手道地区の黒門跡（2 箇所）、松の丸地区の松の丸表門跡（1 箇所）、本丸地区の七曲門跡（4 箇所）で確認されている（「表 2.6 犬山城門・櫓一覧」参照）。

これらの礎石は、一般公開されている範囲から視認できる箇所では遺構が公開されている。



図 6.5 黒門跡礎石



図 6.6 松の丸表門跡礎石



図 6.7 七曲門跡礎石

イ 課題

(ア)石垣、堀、土塁、切岸等

- ・ 本丸の西側及び北側や、縦の丸の西側等の曲輪石垣は、一般公開範囲から視認し難い状況であるため、遺構の視認性を確保する必要がある。
- ・ 城山外縁地区においては、堀、土塁、切岸等の遺構の全貌が把握できない状況であるため、遺構の顕在化を図るとともに視認性を確保する必要がある。

(4) 礎石・地下遺構等

- ・ 黒門跡、松の丸表門跡、七曲門跡以外の門跡等については、礎石が確認されておらず遺構の顕在化が十分ではない。
- ・ 門跡の礎石及び地下遺構等は、遺構の残存状況が把握されていないものが多く、発掘調査等により史実の解明を図る必要がある。

(3) 天守の公開状況

ア 現状

犬山城天守は現在以下のように公開を行っている。

表 6.1 犬山城天守の公開状況

項目	内容	
公開時間	午前9時から午後5時まで（関係者と協議のうえ、延長の場合あり）	
休城日	12月29日から31日まで	
入場料金	個人：一般550円、小・中学生110円 団体：30人以上1割引、100人以上2割引、300人以上3割引 その他施設の入場券と組み合わせたセット券がある	
ライトアップ	午後10時まで	
見学方法	来訪者は本丸に入る前に、杉の丸の前に設置している券売所で入場券を購入する。本丸の城門（鉄門）で入場券の確認を受け、犬山城の案内パンフレットを入手する。天守に入る前に、天守出入口前のテントで靴を脱ぎ（冬季はスリッパに履き替える）、靴を提供されたビニール袋に入れ、天守内では、ビニール袋を持ちながら見学する。天守内に見学順路を表示しているが、混雑時等以外は来訪者の見学動線を制限していない。階段は基本的に右側通行であり、廻縁は右回りである。天守内は飲食禁止となっている。	
天守内の展示内容	地下二階	展示物と説明板は設置していない。階段より奥の空間は立入禁止とし、物置として使っている。
	地下一階	展示物と説明板は設置していない。
	一階武者走り	甲冑、屋根瓦、屏風、棧唐戸等を展示ケースに入れ展示している。また、犬山城の近世絵図、「早発白帝城」の詩、大名配置と石高調べを壁掛けの額と札として展示している。階段の近くに天守の概要説明板を設置している。
	一階附櫓	附櫓と白帝文庫の組織に関する説明板のほか、意見を記入するための台と筆記用具類を設置している。
	一階石落しの間	石落しの間に関する説明板を設置している。
	一階上段の間	立入禁止とし、柵越しに空間と説明板を見せている。
	一階上段の間	立入禁止とし、柵越しに空間と説明板を見せている。
	一階第一の間	壁掛けの古写真を展示している。柵越しに第二の間に設置している天守模型と説明文を見せている。
	一階第二の間	立入禁止としている。（柵越しに第二の間に設置している天守模型と説明文を見せている）
	一階納戸の間	立入禁止としている。
	二階武者走り	展示物と説明板は設置していない。
	二階武具の間	国宝5城を壁掛け額で展示している。武具の間に関する説明板と1/10の天守軸組模型も設置している。
	三階内部	三階に関する説明板を設置している。

	三階唐破風の間	展示物と説明板は設置していない。
	三階破風の間	東の破風の間は柵越しに見学できる。西の破風の間は立入禁止とし、物置として使っている。
	四階高欄の間	高欄の間に関する説明板を設置している。城主、国宝指定書の写し等を壁掛けの額で展示している。
	四階廻縁	展示物と説明板は設置していない。

イ 課題

(ア)入城管理の検討

天守正面のテント屋根は天守の外観を損なうが、雨の日には来訪者の快適性を確保し、天守入口での人溜まりとしての機能を果たしている。そのため、天守の外観だけでなく、来訪者の動線、入城管理や雨・風対策等様々な観点から検討したうえで対策を見出す必要がある。

また、来訪者の増加により、来訪者の快適性確保と防災上の対策に加え、荷物管理の需要も高くなることが想定される。特に公共交通機関を利用する来訪者や訪日外国人はリュックサック等の大荷物を携帯することが多いため、見学に不便だけでなく、リュックサック等が天守を傷付けてしまう恐れもある。券売所にコインロッカーが設置されているが、十分な数を確保できていない。

さらに、来訪者は現在靴脱ぎ場（テント）で靴を脱ぎ、提供されたビニール袋に靴を入れ、天守内部に持ち込む形となっているが、急勾配の階段の昇り降りには靴が手荷物となり、危険となる可能性がある。



図 6.8 テント内の靴脱ぎ場



図 6.9 券売所のコインロッカー

(イ)展示内容の更新

現在天守内に展示物と天守に関する説明板が設置されているが、来訪者に天守の文化財的価値が効果的に伝わる状況とは言えない。展示物については構成に一貫性を欠き、説明も不足している。また、天守の軸組部材が展示物に遮られたり、展示物が長押等の部材に載せられたりする場所があり、天守の内観と部材の保存に良くない。一方、天守に関する説明板は各部分の紹介にとどまり、天守の文化財的価値の理解を促す要素が薄い。



図 6.10 天守内の展示物（屏風）



図 6.11 天守内の展示物（軸組模型）

2 企画・催事等の開催状況

現在、犬山城では一般来訪者に向けて通年イベント等は開催していない状況であるが、市民の犬山城への理解を高めるため、以下のような企画等が開催されている。

ア 現状

(ア)発掘調査等の説明会

犬山城の歴史を広く市民に伝えるため、発掘調査後の現地説明会等を開催している。近年では、平成 29 年（2017）6 月 25 日に、かつて西御殿が存在した場所とされる旧犬山市体育館の跡地にて、現地説明会を実施している。



図 6.12 発掘調査現地説明会の様子

(イ)シンポジウム

犬山市では、平成 29 年と平成 31 年に学術調査等の成果の報告と、犬山城の歴史等について、学識経験者等による研究発表や、パネルディスカッション等を行うシンポジウムを開催している。



図 6.13 犬山城シンポジウムのチラシ

(ウ)教育機関との連携

市内の小学校 3・4 年生の社会科学習の副読本『わたしたちのまち犬山』に犬山城が掲載されており、郷土の文化財として犬山城に興味を持つきっかけとなっている。

また、市内の中学校、高校からの依頼により、犬山城の歴史を知ることのできる体験学習の機会として、職場体験を受け入れている。城内の維持管理・運營業務等を体験してもらいながら、犬山城の歴史を知る機会となり、興味をもつきっかけとなっている。

イ 課題

- ・ これらの取組みは、犬山城を知る上で貴重な機会であるため、市民へのさらなる周知を図る必要がある。
- ・ 現在開催されている企画・催事等は一過性のものであり、市民が継続的に参加できる形式の企画・催事等は開催されていない。
- ・ 来訪者が体験を通じて犬山城の歴史を知るような企画・催事等は行われていない。
- ・ 現在、教育機関との連携事業は、市内の学校等による職場体験が中心であるため、大学を含む教育機関等との連携の強化を図り、学習の場としての機能を充実させるためのプログラムの構築を検討する必要がある。

3 情報発信の状況

ア 現状

(ア)インターネットを活用した情報発信

公式ウェブサイト「国宝犬山城」により、犬山城へのアクセス、入場料金等の基本情報のほか、歴史や城郭構造等を絵図や写真で分かり易く発信している。

また、当ウェブサイトは6か国語にて表記することが可能であり、国外からの来訪者への案内、周知を図っている。なお、犬山城公式の SNS 等を活用した情報発信は行っていないが、犬山市の公式キャラクター「わん丸君」の公式 Twitter により、他の施設と合わせて情報発信を行っている。

(イ)観覧時の情報発信

城内で配布しているパンフレットは公式ウェブサイトと同様に6か国語の表記がなされている。交通案内、入場料金等の基本情報のほか、国宝天守の歴史や構造等の情報が記載されている。



図 6.14 国宝犬山城パンフレット（表）



図 6.15 国宝犬山城パンフレット（裏）

(ウ)来場者に対するガイド

犬山城では、観光客に対するガイドをボランティア団体が任っており、日本人を対象としたガイドとして犬山歴史観光ガイド「ナイスで犬山」が、外国人を対象としたガイド（英語、ドイツ語、韓国語、中国語）として、「犬山グッドウィルガイド」が活動を行っている。

イ 課題

- ・ 観覧時に入手するパンフレットについては、国宝天守の詳細内容が記載されているのに対し、史跡全体の遺構の位置や、概要等の記述が少なく、史跡犬山城跡の価値を伝えきれていない。
- ・ 史跡の観覧ルートや、見どころ等を記載したパンフレットがないため、観覧時に必要となる情報の提供が十分ではない。
- ・ 公式ウェブサイトには投稿機能が付加されておらず、過去の来訪者による評価や感想等を閲覧することができない。

4 周辺施設との連携等

ア 現状

(ア) 犬山市文化史料館本館（愛称：城とまちミュージアム）

犬山市文化史料館本館では、犬山城の歴史文化を伝えるため、以下のような展示を行っている。

同施設内には、公益財団法人犬山城白帝文庫が所蔵する史料等を展示している「犬山城白帝文庫歴史文化館」が設置されている。

表 6.2 犬山市文化史料館本館の展示内容

開館時間	午前9時～午後5時
休館日	12月29日～12月31日 ※展示変更または整理期間
観覧料	一般：300円 中学生以下：無料 団体（30名以上）：240円 ※特別展の観覧料は別に定める
犬山市文化史料館本館	・ 武家文化、町人文化が花ひらいた江戸時代を中心に、犬山の歴史や文化を展示紹介している。 ・ 江戸時代の犬山城下町を再現したジオラマ等の常設展示のほか、犬山市の歴史文化の魅力を掘り起こす企画展示を行っている。
犬山城白帝文庫歴史文化館	・ 公益財団法人犬山城白帝文庫が所蔵している資料を常設展示するとともに年に2回、テーマを設けて企画展・特別展を行っている。

図 6.16 城とまちミュージアムの展示物
(城下町ジオラマ)

図 6.17 犬山城白帝文庫歴史文化館の展示室

(イ)スタンプラリー

犬山城では、周辺地域の自治体や民間企業等と連携して、スタンプラリーの取組みを行っている。近年開催されたスタンプラリーは以下のとおりである。

表 6.3 近年開催のスタンプラリー

開催名	開催時期	企画元
ぶらり城下町スタンプラリー	犬山キャンペーン (春・秋) 毎年	名古屋鉄道×犬山集中大規模観光 宣伝協議会
愛知戦国めぐりスタンプラリー	H29 年度～H30 年度	愛知県振興部観光局
見にとりっ戦とりっスタンプ ラリー	H29 年度～	愛知・岐阜広域観光宣伝協議会
日本まんなか歴まちスタンプラ ラリー	H26 年度～H28 年度 (犬山城)	中部地方整備局
ぐるり木曾川スタンプラリー	～H28 年度まで	木曾川流域観光圏
日本どまんなかお城スタンプラ ラリー	H25 年度～30 年度	大垣市(大垣市観光協会×NEXCO 中日本)

(ウ)セット入場券等の販売

犬山城では、周辺の観光施設との連携を図り、セット入場券等の販売を行っている。現在(令和3年3月)行っているものは以下のとおり。

セット入場券を販売している施設は、市内の観光施設等が多く、比較的小規模な範囲での回遊性の向上及び、市内への宿泊者の誘致等を目的とした取組みであるといえる。

表 6.4 セット入場券の販売状況

券名	観覧施設	販売場所
犬山城下町周遊券	・国宝犬山城 ・城とまちミュージアム ・どんでん館	国宝犬山城、城とまちミュージアム、どんでん館、犬山観光案内所
明治村セット券	・国宝犬山城 ・博物館明治村	国宝犬山城、博物館明治村、犬山観光案内所
リトルワールドセッ ト券	・国宝犬山城 ・野外民族博物館 ・リトルワールド*	国宝犬山城、リトルワールド、犬山観光案内所
モンキーパークセッ ト券	・国宝犬山城 ・モンキーパーク	国宝犬山城、モンキーパーク、犬山観光案内所
モンキーセンターセ ット券	・国宝犬山城 ・日本モンキーセンター	国宝犬山城、モンキーセンター、犬山観光案内所

イ 課題

- ・ 犬山市文化史料館本館では、VR(バーチャルリアリティ:仮想現実)等先端技術を用いた映像や、ガイドンス等の提供は行っていない。今後、調査・研究を深化させるとともに先端技術を活用したコンテンツの開発等を検討する必要がある。
- ・ 犬山城白帝文庫歴史文化館で展示される史料は、公益財団法人犬山城白帝文庫が所蔵する史

料等の一部に限られているため、より多くの史料を展示する方法について検討する必要がある。

- ・ スタンプラリーやセット入場券等の取組みは、多くの観光者に犬山城を知ってもらう機会となるとともに、地域の観光産業の活性化に寄与するため継続し、社会情勢や来訪者のニーズ等に柔軟に対応しながら、更新等の検討を行う必要がある。

5 アクセス環境

ア 現状

(ア) 電車（駅から徒歩）でのアクセス

名鉄犬山線・小牧線・広見線「犬山駅」下車、徒歩約 15 分または、名鉄犬山線・各務原線「犬山遊園駅」下車、徒歩約 15 分となっている。「犬山駅」から徒歩で来場する場合は、城下町の本町通りを通過するルートが主要なルートとなっている。「犬山遊園駅」から来場する場合は、様々なルートを選択できるが、木曾川遊歩道を通るルートは、正面に天守を見据え、木曾川の風致景観を享受しながら進むことができるルートとなっている。

(イ) 自動車でのアクセス

名神高速道路「小牧 IC」から約 25 分、名古屋高速道路「小牧北 IC」から約 25 分、中央道「小牧東 IC」から約 20 分、東海北陸道「岐阜各務原 IC」から約 25 分となっている。周辺に主要な幹線道路のインターチェンジがあり、様々な方面からアクセスし易くなっている。

犬山城の南側には 140 台（バス 10 台）収容できる第 1 駐車場（キャッスルパーキング）が整備されている。また、犬山城まで徒歩約 8 分の内田防災公園内に第 2 駐車場（123 台）、犬山城まで徒歩約 20 分の犬山市役所に第 3 駐車場（150 台）を整備している。

(ウ) バスでのアクセス

バスでのアクセスは、犬山駅及び犬山遊園駅等を循環し、犬山城の南側のバス停「城前広場」に停車する犬山市コミュニティバス（13 人乗り）の路線（内田線）が運行されている。「城前広場」駐車場からは、上り便が 1 日 6 便、下り便が 1 日 5 便（平日のみ）発着している。

(エ) 自転車でのアクセス

キャッスルパーキング付近及び、犬山市文化史料館前にサイクルスタンドが設置されている。

イ 課題

- ・ 最寄り駅である「犬山駅」及び「犬山遊園駅」からは、いずれも徒歩約 15 分となっているため、主要な観光ルートとなる城下町、木曾川遊歩道及び城見歩道等と一体的な歴史的風致の維持・向上を図る必要がある。
- ・ 自動車でのアクセス環境は整っているが、今後の社会情勢や来訪者のニーズ等に柔軟に対応した整備が必要である。
- ・ 現在運行しているバスは、地域住民の移動円滑化を図るものであるため、公式のホームページやパンフレット等には、バスでのアクセス情報等は記載されていない。
- ・ 現在、犬山城を含む周辺地域では、レンタサイクルやコミュニティサイクル等の事業は行わ

れていない。

6 来訪者の状況

ア 現状

近年における犬山城の入場登閣者数は、以下の通りである。

各年度における入場登閣者数は、新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受ける前の平成30年度までは増加傾向にあった。また、行楽シーズンである3月から5月、8月、10月及び11月の入場者が多くなっている。

表 6.5 犬山城の入場登閣者数

月	入 場 登 閣 者 数 (人)			
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
4 月	63,671	70,181	74,624	86,444
5 月	66,497	67,016	69,223	77,475
6 月	34,501	41,136	45,083	40,223
7 月	37,235	35,026	33,843	35,973
8 月	53,244	60,428	54,082	49,040
9 月	38,554	45,234	43,478	41,485
10 月	52,544	44,030	56,986	39,734
11 月	56,065	64,208	66,104	55,233
12 月	26,517	30,106	32,243	31,115
1 月	37,727	43,364	41,723	48,823
2 月	28,571	34,175	36,702	34,913
3 月	57,023	75,642	66,025	0
合計	552,149	610,546	620,116	540,458

※令和元年 8 月 1 日～9 月 30 日：天守保存修理工事に伴い天守一部入場不可。入場料無料にて天守 1、2 階を開放

※令和 2 年 2 月 29 日～3 月 31 日：新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため閉城

イ 課題

- ・年間を通じて多くの来訪者が訪れているため、史跡を観覧する上での安全性及び利便性の向上を図る必要がある。
- ・6 月、7 月及び 12 月、2 月は、比較的来訪者が少なく、特に週末や祝日と比較して平日の来訪者が少ない傾向にある。
- ・今後の運営において、新型コロナウイルス等の感染症の拡大防止等についての対策を講じる必要がある。

第3節 活用の方法

1 公開活用

(1) 公開範囲

- ・ 大手道を介して各曲輪へ連絡する犬山城の特徴的な縄張り構造を来訪者へ分かり易く伝えるため、今後、杉の丸地区の公開方法の検討を行う。
- ・ 城山外縁地区では、発掘調査で確認された土塁、堀、切岸等の遺構の顕在化及び公開に向けた検討を行う。

(2) 遺構等の公開

ア 石垣、堀、切岸、土塁等

- ・ 近世以前に築造された石垣は、往時の犬山城の縄張りや歴史を示す重要な遺構であるため、来訪者の観覧ルートからの視認性を確保する。
- ・ 城山外縁地区においては堀、土塁、切岸等の遺構が存在しているため、遺構の視認性を確保し、顕在化を図ったうえで安全に公開するための手法を検討する。

イ 礎石・地下遺構等

- ・ 門跡の礎石や地下遺構等は、遺構の残存状況が把握されていないものが多いため、発掘調査や文献調査等を進め、新たな史実の解明を図り、調査により遺構が確認された場合は、遺構の公開を積極的に検討する。

(3) 天守の公開活用方法

ア 入城管理方法の見直し

入城管理施設の更新検討（第7章 第3節 2(3) 天守の整備方法参照）と同時に現在の入城管理のあり方も見直し、将来的な需要に応えられるように備える。特に以下の内容に重点を置いて検討する。

- ・ 来訪者の増加と城郭全体の公開範囲の拡大を想定する。検討例として、来訪者の増加と今後の城郭全体の公開活用範囲の拡大を考えて、荷物管理の需要も高くなることが想定されるため、コインロッカーの数や設置場所の見直し、荷物預かりサービス等を検討する。
- ・ 来訪者の安全性と快適性に配慮する。検討例として、靴脱ぎの代わりに衛生シューズカバーの提供や靴入れの設置、靴袋の素材やデザインを工夫する等、靴脱ぎの不便さという負のイメージを改善する対策を検討する。

イ 天守の展示内容の見直し

現在天守内の展示内容は一貫性を欠き、説明も不足している。天守の文化財的価値をより効果的に伝えるために、今後天守の展示計画を以下の考え方に基づき見直す。

- ・ 天守の内観と特徴を見せることを優先する。検討例として、説明板等を設置する場合は天守の内観への影響を最小限に抑える。必要に応じて、説明板の代わりに、音声ガイドや携帯電話のガイドアプリ等の導入を検討する。

- ・ 「第2章 第5節 文化財の価値」で示した天守の文化財的価値を伝える展示内容を計画し、天守の文化財的価値をなるべく広い対象範囲に伝える。検討例として、来訪者の多様性を考慮し、活用メニューや価値の理解を促す要素の充実を図る。単なる「見せる」以外の手法も積極的に検討する。また、天守内観の見学の支障とならないよう、展示物を必要最小限とし、量よりもわかりやすさ、一貫性とインパクトを重視する。

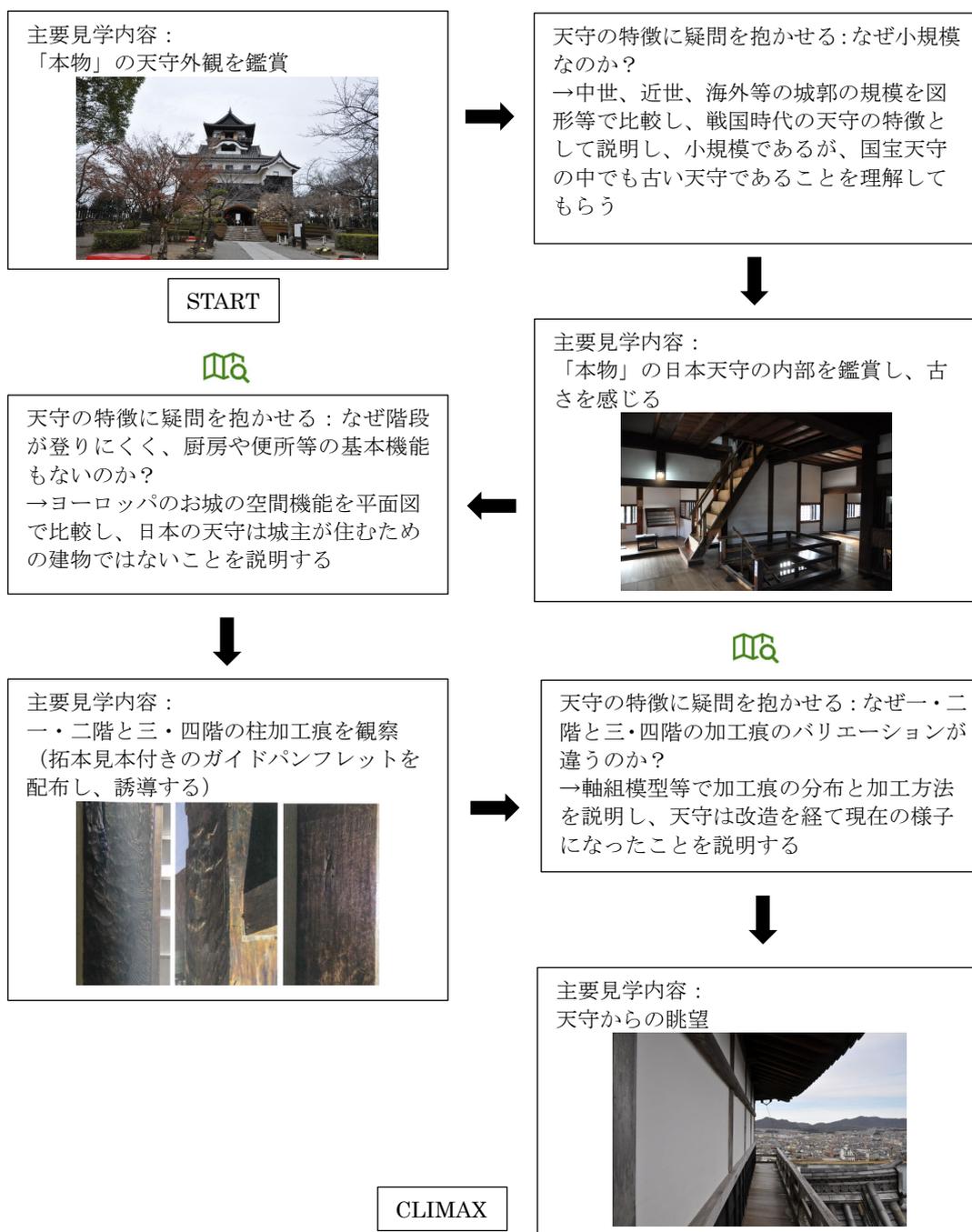


図 6.18 展示計画の検討例

- ・ インバウンド対策を考慮する。検討例として、展示内容の説明を多言語化するだけでなく、内容自体も必要に応じて編集する。日本史や日本建築等日本独自の内容がある場合は内容を薄めて易しくするのではなく、訪日外国人の来訪者でも身近に理解できる内容やアプローチを検討する。

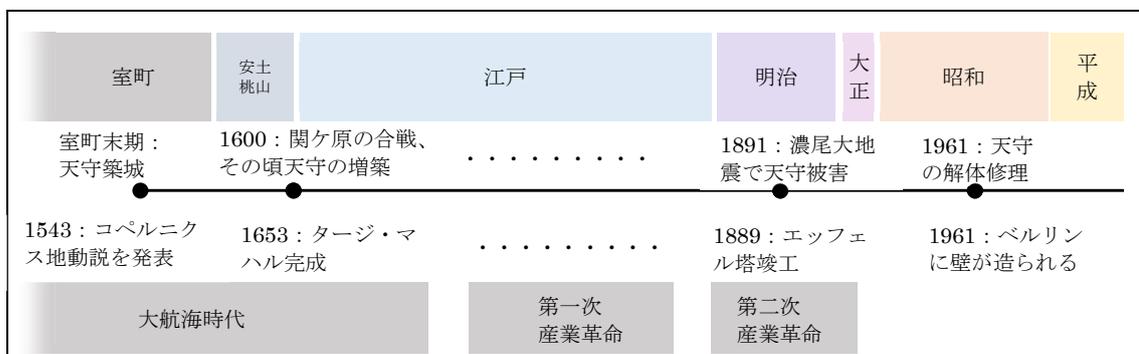


図 6.19 展示方法の例：天守の歴史に世界史の社会背景を追加すると訪日外国人がより身近に理解できる

2 企画・催事等の検討

- ・ これまでも実施してきた発掘調査現地説明会、シンポジウム等を積極的に開催し、市民に犬山城を理解してもらう機会を広く設ける。
- ・ 一過性の企画・催事等だけでなく、市民が継続的に参加できるプログラム等を構築し、市民による犬山城への愛着の醸成を図る。
- ・ 犬山城の歴史や文化への理解を深めることができるよう体験型のイベント等を企画・開催する。
- ・ 教育機関等との連携を強化し、学校教育のカリキュラムや大学の研究教育プログラム等で犬山城を学習の場として活用することにより、将来の担い手の育成を図る。

3 情報発信の方法

ア 多様な情報発信方法の検討

- ・ 現在行っている公式ウェブサイト、パンフレット等の他、SNS 等の活用や交通機関や宿泊施設等と連携した商品の拡充等、多様な媒体を活用した情報発信方法の検討を行い、市内外への周知を図る。

イ 史跡犬山城跡のパンフレットの発行

- ・ 現在、犬山城で配布しているパンフレットは、国宝天守については詳しく書かれているものの、史跡指定地内の遺構等にはあまり触れられていないため、犬山城の縄張りを構成する曲輪や石垣等の説明、史跡全体図等の情報を含むパンフレットの作成等を検討する。
- ・ 史跡の見どころや観覧ルート等を表示し、観覧時に必要となる情報を提供する。

ウ 口コミ機能による利用者の評価

- ・ 来訪者が事前に収集する情報には、施設へのアクセス、基本情報等に加え、実際の利用者の

口コミ等の評価が含まれる。公式ウェブサイトの他、口コミ機能等があるインターネット媒体等を活用した情報発信の拡充について検討する。

4 周辺施設との連携

- ・ 先端技術等を活用した映像やガイドシステムの導入等により、犬山市文化史料館本館での犬山城に関する展示の充実を図るとともに、新たな展示場所の確保等も視野に入れ、公益財団法人犬山城白帝文庫所蔵史料をはじめとする犬山城に関する史料等の展示拡充について検討する。
- ・ 現在実施している広域的なスタンプラリー及び市内の観光資源等とのセット入場券の販売等の事業の継続・拡充を検討し、犬山城と周辺地域が一体となって回遊性の向上及び観光資源の有効活用を図る。

5 アクセス環境の向上

- ・ 鉄道駅から徒歩でのアクセスについては、犬山駅及び犬山遊園駅からの主要なルートとなる城下町の歴史的建造物や町並み景観、木曾川遊歩道や城見歩道等の風致景観を保全し、周辺地域の一体的な歴史的風致の維持・向上を図る。
- ・ 自動車でのアクセス環境は整っているため当面は現状を維持するものとし、今後の社会情勢及び来訪者のニーズ等に柔軟に対応した整備の検討を行う。
- ・ 市内の主要な観光資源等を循環するバス路線等、高齢社会に対応したアクセス環境の検討を行う。
- ・ 指定地外の犬山城関連遺構や周辺施設等への回遊性の向上を図るため、レンタサイクルやコミュニティサイクル等の導入の可能性について検討する。

6 感染症の拡大防止等に向けた対策

- ・ 今後、新たな感染症等が流行した場合に向けて、天守及び史跡内における感染拡大防止対策等の検討を行う。
- ・ 具体的な対策内容は、国及び自治体の対策方針に従い、感染症の症状や感染ルート等の状況により、個別に検討するものとするが、混雑を回避するための入城規制やソーシャルディスタンスを確保した施設の活用が可能なリスクマネジメント体制の構築を図る。
- ・ 今後、従業員の感染防止対策として、来訪者との接触機会を減らすためのリモートシステム等の構築や休城等を余儀なくされた場合に備え、犬山城の魅力を伝えるための動画配信等について検討する。